

8検索条件の指定(11)(12)(13)

検索条件の指定(11)(12)(13)

実際には、from句に複数のテーブルを指定するのは、select の形では、ちょっと試 みにくいかも知れない。例えば、たった20行からなるテーブルどうしても、積を作れ ば、行数は20×20=400行になってしまう。もしも、1000行程度のテーブルなら、その積 のテーブルは100万行にも膨れ上がってしまう。しかし、実務の世界では、1000行規模の テーブルなどは、むしろ小さなテーブルと言えるのである。

これまでのselect文の使い方では、項目名の指定によって、テーブルから不要な項目を 切り落とし必要な項目だけを残すことは出来ても、必要な行だけを残すことが出来な かった。別の言い方をすれば、これまでは、テーブルに縦方向にハサミを入れて、項目 の切り貼りをする事は出来ても、テーブルに横方向にハサミを入れて、不要な行を切 り落とすことが出来なかったのである。

select文のwhere句は、まさにこの、検索されるべき行が満たすべき条件の指定という働 きをするのである。

次の例では、「仕入」というテーブルから、300円以下の単価の部品の部品番号と、単価を表示させて いる。

例 11: 単価300円未満の部品を検索

```
select 部品番号 , 単価
from 仕入
where 単価 < 300
```

部品番号	単価
1	73
1	38
6	120
6	250
1	33
1	36
4	240
5	110
1	70
1	19

部品番号	単価
2	280
1	37
1	76
2	140

where句の中にあらわれうる比較演算子には次のような種類がある。

=	等しい
>	大きい
<	小さい
>=	大きいか、あるいは、等しい
<=	小さいか、あるいは、等しい
!=	等しくない
<>	等しくない

注意しておきたいことは、これらの比較演算子が、数値に対しても文字列に対しても、同じように使えるということである。いくつかの例を挙げておこう。まず最初の例は、「業者」というテーブルから、「水海道商事」の業者番号 を得ようというものである。文字列は、シングル・クォート (') で囲まれている必要がある。

例 12: 水海道商事の業者コードを検索

```
select 業者番号, 業者名
from 業者
where 業者名 = '水海道商事'
```

業者番号	業者名
4	水海道商事

水海道商事の業者番号 = 4 が分かれば、次のような検索も可能となる。

例 13: 業者番号'4'の仕入状況を検索

```
select 部門番号, 部品番号, 単価, 数量
from 仕入
where 業者番号 = 4
```

部門番号	部品番号	単価	数量
4	7	31	10
4	8	630	38
4	9	840	82
4	10	240	36
4	11	200	58
4	12	870	32
4	13	790	75
6	5	500	82
6	7	50	34
6	8	350	27
6	9	790	78
6	10	300	40
6	11	140	73
6	12	910	88
6	13	710	60
7	7	44	65
7	8	180	97
7	9	230	29
7	10	910	65
7	11	870	50
7	12	200	65
7	13	980	77
8	7	160	12
8	8	780	77
8	9	590	13
8	10	890	96
8	11	120	28
8	12	220	11
8	13	600	59

29件の取引情報がヒットするはずである。